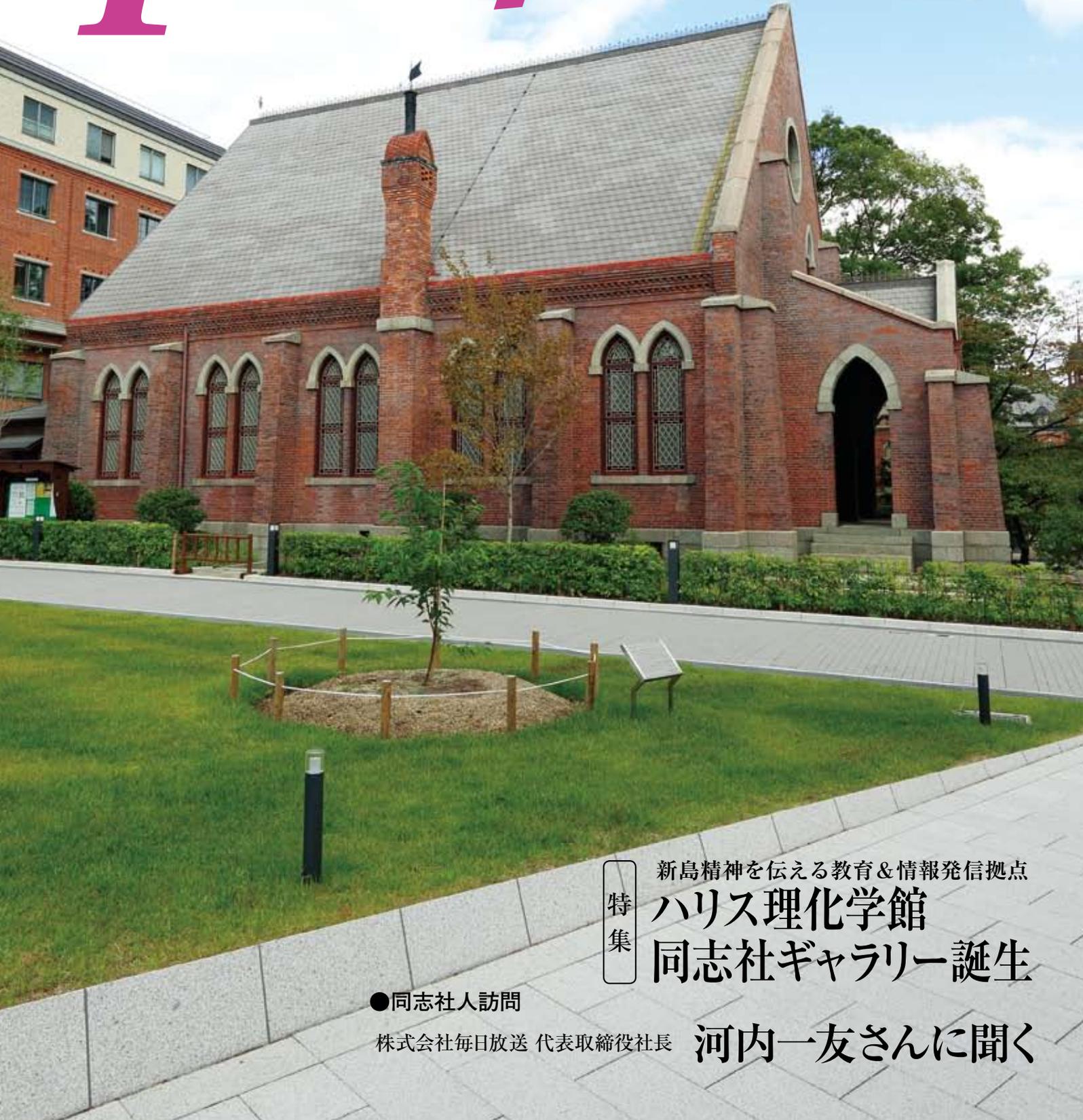


One purpose

FOR BETTER COMMUNICATION

同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY



特集

新島精神を伝える教育&情報発信拠点
ハリス理化学館
同志社ギャラリー誕生

●同志社人訪問

株式会社毎日放送 代表取締役社長

河内一友さんに聞く

『ONE PURPOSE』は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までご意見・情報をお寄せください。

※今号に登場する学生の学年は取材時によるものです。



特集

新島精神を伝える教育&情報発信拠点 ハリス理化学館 同志社ギャラリー誕生

2

ゼミ探訪 学びの時間

9

商学部 大原 悟務 ゼミ

同志社の研究は今

11

関係論的システムデザイン研究センター 下原 勝憲 理工学部教授

同志社校友会

13

世界に広がる「同志社ネットワーク」

CAMPUS NEWS

15

ホームカミングデー2013を終えて／2013年度 秋学期外国語 honors認定書授与式／東京オフィスの移転について／特定寄付奨学金募金 協力者ご芳名／ビジネス研究科に新課程開設／はるか桜植樹式／新任教員紹介／退職教員／本学教員執筆図書紹介

INTERVIEW ～同志社人訪問～

20

株式会社毎日放送 代表取締役社長 河内一友さんに聞く

MY JOB, MY LIFE ～シリーズ 私と「仕事」～

23

・中村 圭介さん(2004年 総合政策科学研究科修了)
・宗 恵理子さん(2003年 文学部文化学科国文学専攻卒業)

ANNOUNCEMENT

25

MY PURPOSE

27

「第61回全日本学生弓道選手権」女子個人戦で優勝～関西リーグ1部で戦える実力をつけ、目標は1部で勝つ～
弓立 佳奈さん(スポーツ健康科学部 3年次生)

NEXT ISSUE

次号は6月1日発行を予定しています。

特集として、皆さんに在学中にぜひ読んでいただきたい古典・名著を中心として選抜いた「同志社100冊」を予定しています。ご期待ください。



表紙の情景 [同志社礼拝堂(チャペル)]



今出川キャンパスに建ち並ぶ国の重要文化財のひとつである同志社礼拝堂(チャペル)は、1886年(明治19年)に竣工した、日本にあるプロテスタント派の煉瓦造りの礼拝堂では現存する最古のもの。

外観は、アメリカン・ゴシック調の鉄板葺き。急勾配の切妻屋根が美しい建物である。設計はD. C. グリーン。

今出川キャンパス整備事業により、同志社中学校が移転、サンクタスコートと呼ばれる芝生の空間が生まれたことにより、これまであまり目にする事のなかった西側から礼拝堂を一望できるようになった。

京田辺キャンパスでも礼拝堂の建設計画が進んでおり、両キャンパスにキリスト教精神の象徴が出来上がる日も近づいている。

特集

新島精神を伝える教育&情報発信拠点

ハリス理化学館 同志社ギャラリー誕生

同志社理化学教育の拠点として

1890年に竣工した「ハリス理化学館」。

同志社大学今出川キャンパスにある5棟の

重要文化財の1つであり、歴史は4番目に古い。

キャンパス再編計画に伴い、このほどその歴史的建物が

「同志社ギャラリー」として再生。

新たな歩みを開始した。

ハリス理化学館竣工時の同志社英学校



ハリス理化学館 の軌跡



新島襄の夢の一端を担って

東京大学に対抗しうる私立の総合大学をつくる——新島襄の描いた壮大な夢の一端にあったのが、理化学教育の拠点としての「ハリス理化学館」である。その歴史は、1889(明治22)年、アメリカの実業家、J・N・ハリスから同志社に莫大な寄付があったことに遡る。その前年から全国的な規模で募金活動を展開していた新島の訴えに理解を示したハリスが、同志社に理化学校を設立して理化学教育を行うためとして、建築費、維持費を合わせ、総額10万ドルもの大金を提供したのである。

定礎式が行われたのは1889年11月15日。翌90年3月26日上棟式が挙行されたが、建物の完成と理化学校の開校を誰よりも強く待ち望んでいたに違いない

新島は、同年1月23日に神奈川県大磯で他界している。その葬儀が建築現場の西隣、礼拝堂前に大テントを張って営まれたのは、夢の一端を目にすることなく逝った新島の無念を慮ったためかもしれない。

イギリスの建築家、A・N・ハンセルの設計による建物は、建築面積587㎡、煉瓦造、2階建、棧瓦葺。正規のイギリス積みが採用され、全体に端正なまとまりをみせてい

る。当初は屋上の中央寄りに八角平面の天文台があったが、1891(明治24)年の濃尾大地震の際に危険が予想される状態になり、1893(明治26)年3月に取り除かれた。



昭和初期のハリス理化学館

1976(昭和51)年から翌年にかけて、内部に耐震補強壁を設ける改修工事が行われたが、外部と館内中央の2階へ通じるメイン階段は当初のまま残された。この階段の手すりには、新島の棺を担いだ棺台が利用されたとも伝えられている。

7年で幕を下ろした 栄光の歴史

「ハリス理化学館」を中心施設とするハリス理化学校の開校は、1890(明治23)年4月であった。同志社普通学校の5年間の課程を終えた学生のほか、同志社以外の学校の卒

業生にも門戸を開き、同年9月に授業を開始した。当時ハリス理化学校は、東京帝国大学を除けば、日本で最も優れた科学技術の学校であったと言われている。

しかし、1893(明治26)年の第1回卒業式をハイライトに、ハリス理化学校は終焉を迎える。わずか7年間で学校が機能停止に陥ったのは、新島の早世と、発展の大きな後ろ盾であったアメリカン・ボードと同志社理事会の間で対立が生まれ、ついには関係を断絶するに至ったことが理由である。1897(明治30)年、短い栄光の歴史に幕を下ろした理化学教育の拠点の再興は、1944(昭和19)年4月、同志社工業専門学校の開校まで待たねばならなかった。



現在のハリス理化学館



過去・現在を見つめ、未来に力強く 前進していくために

2013年11月29日、創立138年の記念日に、ハリス理化学館同志社ギャラリーの開館記念式典を、大谷實総長、村田晃嗣大学長の出席のもと、福島県、京都府、京都市から来賓を迎え、神学館礼拝堂で執り行った。

記念式典は賛美歌の斉唱で始まり、原誠キリスト教文化センター所長の聖書朗読と祈祷に続いて、村田学長が登壇、次のように式辞を述べた。

「ハリス理化学館をはじめ5つの重要文化財がある今出川キャンパスに同志社ギャラリーが作られることは、同志社の歴史を示すものです。しかし、同志社が138年にわたる長い歴史を持つているから、同志社ギャラリーを作って歴史を振り返ろうとしているではありません。同志社の過去を見つめながら、これまで重ねてきた苦難、築き上げてきた栄光、そして決して忘れてはならない様々な失敗を見つめ直し、将来に向けての教訓にする

年に竣工した同志社理化学教育の拠点でありました。そこに開設されたギャラリーは、それらの歴史と創立者・新島襄の建学の精神を貴重な資料と併せて紹介するとともに、新たな情報発信基地としての役割を持った展示施設です。そのためにギャラリーには企画展示室が配置されていて、その第1回企画展で「新島襄と八重」を開催しました。同志社と福島県とは包括連携協定を締結しており、今回の企画展を通じて同志社と福島

という意味で、同志社ギャラリーは誕生したのです。それは単なる過去を映し出すのではなく、現在の同志社を表すギャラリーでなくてはなりません。これを機に同志社が過去を振り返り、今日われわれが直面している問題や課題を改めて見つめ直し、未来に力強く前進していける貴重な機会を得たいと思います」

次いで、大谷総長が以下のように挨拶。
「ハリス理化学館はアメリカの実業家、J・N・ハリスの寄付によって1890

との絆、京都と福島との連携がいつそう強化されることを念願しております」

さらに、来賓として出席した
景山博福島県大
阪事務所長、福
原早苗京都府政
策企画部戦略企



画課大学政策担当課長、渡部啓二会津若松市観光商工部企画副参事、古瀬ゆかり京都市総合企画局市民協働政策推進室大学政策担当部長による祝辞があり、頌栄の斉唱、水谷誠理事長による祝辞で式典は幕を下ろした。

その後、ハリス理化学館前でテープカットを行い、式典出席者は企画展「新島襄と八重」の開催がスタートした同志社ギャラリーを見学した。

同志社ギャラリー、その誕生の意義と可能性を語る

同志社ギャラリーに展示されている歴史的遺物の多くは、従来同志社社史資料センターが所蔵してきたもの。開設に当たっても、実際の設営・展示作業には同センターが主導的役割を果たしてきた。構想段階から関わり、開設後の運営にも力を尽くす小枝弘和調査員に、同志社ギャラリー誕生の経緯からその意義、今後の展開などを伺った。



同志社社史資料センター
社史資料調査員
小枝 弘和

同志社の 新たな情報発信拠点に

ハリス理化学館には従来、2つの展示室がありました。他の部屋には事務室が入っていました。そして、ちょうど今出川キャンパス整備計画の中で各事務室が移転することになり、その後の建物の利用法について検討が始まったのが2009年でした。構想検討委員会が設けられ、1年をかけて、同志社の新たな情報発信拠点とする基本構想がつくられたのです。博物館的な施設にしようという考え方は当初からありませんでした。同志社の過去だけでなく、現在やこれからの未来を情報として発信し、同志社というものを感じてもらえる施設にすることが大前提だったのです。



●新島襄愛用の聖書

新島襄がアメリカ滞在中にハーディー家でともに過ごしたJ・M・シアーズから贈られた聖書。襄はこの聖書を片時も離さず持ち歩いていたという。襄永眠後、教え子の徳富蘇峰の元で保存されていたが、1953年(昭和28年)11月28日、同志社創立78周年記念式で、蘇峰から同志社に寄贈された。

学外への情報発信が同志社ギャラリーの主な目的ですが、もう1つ、卒業生と在学生、これから同志社に入社する人たちも含めて、同志社の過去・現在・未来をつないでいく場とすること、そして特に重視することが、大学の初年次教育として利用していただくことが重要であると考えています。今では他大学でも自校史教育が盛んに行なわれるようになりまし



た。同じ自校史教育でも、文字情報だけでは単なる知識にすぎません。実際の展示品、例えば同志社では徽章が様々なデザインにあらわれていることを知るだけでも歴史のリアリティを感じることができ、卒業後、20、30年経って同志社のことを懐かしく思い出してもらおう。同志社の過去、現在、未来を知ること、同志社に対する愛校心を鼓舞する。そうした場とすることが、同志社ギャラリーの大きな目的の1つとしてあります。

参加するギャラリーとして

このギャラリーの利用者は主として学内関係者ということになりますが、同志

社ギャラリー

との関わり方

は、観に来るという

方向がある一方で、参

加するという方向もあるので

す。その意味で私が最も重要だと思っ

ているのは、「企画展示室」と「同志社の今」

という部屋です。そもそも「同志社のあゆ

み」や「新島襄の人と思想」といった常設

展の展示物は、従来遺品庫に保管されて

いて、年2回の企画展で公開されてきた

ものです。それらは同志社や新島襄につ

いて学内外の人々に広く知ってもらおうと

同時に、在学生の自校史教育の一環とし

て、同志社への理解を深め、愛校心を育む

役割を持っています。

一方、企画展示室は特定のテーマで運営されるものではなく、常に動き続けているものでなくてはなりません。学内だけに目を向けていると、展示物も限られてしまいます。ですから、コラボレー

ションを考えています。学外の様々な人々、団体に参加していただき、同志社とのコラボを

き、同志社とのコラボを

作品として展示す

る。したがって企

画展示室のテー

マは必ずしも、

それがイコー

ル同志社という

ことにはならな

いかもしれない。

同志社だからこそで

きることを考えると考

えています。

例えば、現代文化と同志社がコラボ

レートするとどんなことができるか。同

志社には歴史遺産がたくさんあります

が、歴史だけにスポットを当てるのでは

なく、新しい魅力を見つげるために、若い

人たちの今の文化とコラボする接点を見

つける努力をする。具体的な事例を挙げ

れば、サブカルチャーを、大学としてアカ

デミックに探究し、発信することもでき

るでしょう。同志社という枠の中だけで

考えるのではなく、現在の文化の中で同志社を見るとどうなるかというようなこともやっていきたいと思えます。

多様な役割を果たす可能性を持った場

同志社大学というこの場所、立地に価

値があるのです。学内外問わずそのよう

に思っていただけの人たちにはほとんど

ハリスに関わってもらいたいと考えてい

ます。私たちは特に常設展示室「同志社の

今」を、学生にも積極的に利用してほしい

と考えています。個性豊かな学生たちが

集まってくると、同志社ギャラリーに新

たな可能性が生まれます。それがまた同

志社らしさではないでしょうか。情報発

信をするという意味では、文系・理系は問

いません。ギャラリーは多様な役割を果

たす可能性を持った場となるべきだと考

えています。

この建物は、かつてハリス理化学校で

した。理化学教育を行う教育施設である

と同時に、化学検査場として、地域に開

かれた施設でもありました。外に向けて

も情報を発信していたという歴史があ

ります。そうしたハリス理化学校がそも

そも担っていた役割を踏まえながら、こ

こで何ができるかをあらゆる可能性を

排除せず、今後も考えていきたいと思っ

ています。



●新島襄肖像ガラス湿板
新島襄は密出国を直前に控えた1864年(元治元年)6月13日、家族に贈るために自身の肖像を写真に収めた。その写真のガラス原板。

歴史

教育

精神

同志社の実像がここにあり。

1F

1 「同志社のあゆみ」

1875年(明治8年)11月29日、近代化のさなかにあった京都の地にキリスト教主義の学校「同志社英学校」が誕生。以来、日本の歴史とともに進めてきたあゆみを、代表的な資料を通じてたどる。知徳体の三位一体を表す同志社徽章の数々を集めた展示には、自由な発想や活動を尊重する同志社ならではの気風が窺える。

2 「新島襄の人と思想」

新島襄が10年におよぶ海外での経験から見出したキリスト教主義の教育。その過程を現存する資料から追体験する。

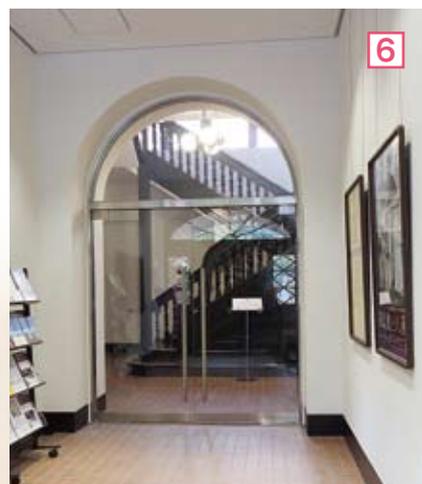
3 1階廊下と2階へ通じる階段

同志社ギャラリー1開館に当たり、ハリス理化学館の建物外観はもちろん、館内も開設当時の設えを可能な限りそのまま残した。その空間からは当時の時代の息吹を感じることができる。

4 「同志社の今」

創立以来、歴史の大きな流れの中で時に抗い、時に従い、あゆみを進めてきた同志社。現在も生徒・学生のみならず多くの卒

1F





業生により、その歴史は紡がれ続けている。その1ページを紹介するこの部屋では、年6回、同志社大学の学生・教員、あるいは卒業生など学外の関係者の企画展示も行う。

5 「世界の中の同志社」

同志社の歴史はアメリカン・ボードの宣教師をはじめとする多くの外国人たちの支え抜きには語れない。ここでは、同志社の教育や発展に思いを寄せ、関わりを持った外国人たちを紹介し、同志社の教育理念の1つでもある「国際主義」の素地をたどる。

6 エントランスのガラス扉

従来、外気直通だったエントランスにガラス扉を設置、密封性を高めた。展示物を良好な状態で保つためには、厳密な温度・湿度管理が欠かせない。

2F

年4回、様々なテーマで企画展示を行う。開館記念の第1回企画展「新島襄と八重」(2013年11月29日〜2014年2月28日)では、1日平均約500人の来館者で賑わった。

2F
1 企画展示室

同志社大学今出川キャンパスの遺跡調査において、薩摩藩邸、江戸時代の公家屋敷、室町幕府、相国寺が重層的におかれたきた政治文化都市「上京」の存在を示す多

3 「京都の中の同志社」

くの貴重な資料が出土した。ここに展示するそれら資料や文書・絵図からは、千年の都のうちのどのような「京の歴史」を背景とした地に同志社がおかれているのかを感じることができる。

4 「J・N・ハリスと同志社」

同志社の理化学教育の起源は、1890年(明治23年)に正式開校したハリス理化

5 天文台へ通じる螺旋階段

学校に遡る。その名にあるように、J・N・ハリスの援助なしには同校の誕生はあり得なかった。ここでは、残された資料から理化学教育のルーツを探る。



商学部

大原 悟務^{さとむ}ゼミ

視点を変わると価値が変わり、可能性が広がる。

直接現場を訪れ、一次情報を収集することが大事

1922年開校の専門学校高等商業部を前身とし、公認会計士、税理士などの合格者数では全国トップレベルにある商学部。地元・京都をはじめ、関西・中央経済界の中核で多くの卒業生が活躍している。

3・4年次に連続するゼミは、1人の教員のもとで20人前後の少人数の学生が専門書の輪読、アンケート調査や企業訪問などのフィールドワーク、ゼミ生相互の討論などを通して、専門領域における学問を探究していく。大原悟務准教授が指導するゼミのテーマは商品学。商品価値の探求を目的とする学問で、大原ゼミでは商品の脱同質化（脱コモディティ）の策について考察する。

大原先生が説明する。

「ゼミでは『マーケティング・リフレミング』の概念をもとに脱コモディティ策を学んでいます。視点を変わると商品の価値が変わってくる、あるいは事業の可能性が広がってくるという概念です。マーケティングにはもともとリポジショニングという概念があるのですが、これはもともとからあ

る強みをさらに伸ばしていこうというもので、リフレミングはそういう前提条件を一度外して、弱みとなっていたものを捉え直そうという考え方なのです」

具体的には、商品、事業が視点を変わることによってどう変わっていくのかをテーマに、実際の企業を対象にした事例調査を行う。今年のゼミでは流行の先端を

行くアパレルメーカー

カーに伝統産業の

西陣織の会社、京

都の土産菓子メー

カーにも出かけた。いずれも弱点を

強みに変えることを模索した企業

ばかりだ。

大原ゼミではこうした事例調査などを

通して、学生自らが現場を訪れ、自分の足

で一次情報を収集することを重視する。例

えば土産菓子メーカーでは、店頭での観察

や役員へのインタビューを行った。

「現場で得る情報には、文献やテキストからでは得られないものがあります。もちろ

ん、関係者にインタビューする、アンケート

に答えてもらうというのは、断られること

が多く、そう容易なことではありません。しかし、実施できなかつたとしても、そ

の準備、計画過程は無駄にはなりません。

その意味でも学生たちには、調査の対象となる人に会って直に情報を入手する努力

をしてほしい」と大原先生は言う。

大原 悟務

【商学部准教授】



教室と大学の外を
行き交い学ぶ

大原ゼミでは一昨年と昨年、日経ビジネスが主催する「西日本インカレ」という大学合同の学術発表会に出場した。今回取材した4年次生が出場した発表会のテーマは「creation（創造）」。

「あるグループは親子のコミュニケーションを高める入浴剤を提案しました。大学付属の小学校に勤務しているゼミの卒業生に協力してもらい、企画時には実際に小学校への訪問も行いました。残念ながら一次審査は通過できませんでしたが、発表内容はとても良かったと思います」と大原先生が言えば、チームのメンバーの1人と



して出場した栗田英典さんも「テーマに沿ってみんなで準備をし、考え、動いた。かけがえのない経験をさせてもらいました」と語る。

栗田さんたちゼミ生は、3年次の春学期から秋学期にかけて、その西日本インカレの準備と並行して、マーケティング・リフレミングについてテキストを読みながら学んだ。4年次になると、4グループに分かれてリフレミングについての事例調査活動がスタート。春学期は調査の準備を行い、秋学期以降にインタビューなど実際の情報収集活動を進めていった。調査成果の発表会には、テキスト著者の先生を立命館大学から招き、活発な意見交換を行った。

商学部では卒業論文は必修ではないが、ゼミに入ると卒業研究を行い、最終的には論文にまとめることになる。大原ゼミでは基本的に個人で研究をし、執筆する形をとっている。ここでも関係者へのインタビューやアンケートを重視している。

身につけた リフレミングの考え方は 社会で活きる

大原先生に、ゼミの2年間で学生に身につけてほしいことを聞いた。

「ゼミでは一次情報が大切と繰り返し言いましたが、それだけではなく理論を踏ま

えることも忘れてはいけません。現場の情報と理論をバランスよく学び、卒業した後もそれらを活用してほしいと願っています。視点を変えるということがこのゼミのキーワードの1つです

が、それは社会に出てから若手社員であつても求められますし、中堅社員になっていく中でも必要とされます。組織に入るとどうしても先例や決まったやり方に縛られてしまいがちですから、そこで視点を変える提案、行動を取ってほしいと思っています。そういうふうにゼミで身につけたことを将来につなげてもらえたらうれしいですね」

個人の自由を尊重してくれる 先生だからこそ

何人かの学生に、ゼミで実際に身につけたこと、学んでよかったことを聞いてみた。

「1つの物事に対し、視点を変えていろんな方向から見るといことは、商品や事業に限らず日常生活でも役立たせることができます。そういう応用力が身につきました」と言うのは宮崎礼奈さん。伊藤崇裕



さんは「商品のコモディティ化を打ち破るには、いろんな発想が求められます。どんな仕事につくにしても、それを学んだことが役に立つはず」と話す。「身近にあるものでも、それを当たり前と思わずにいろんな面から考えることを教わりました。多面的な思考力が身についたと思います」と語ったのは唐木田紗帆さんだ。

また、ゼミの魅力について聞くと、こんな答えが返ってきた。

「先生との距離が近く、学生のことを本当に親身に思ってくれます。だから私たちも団結力が強くなるんです」(宮崎さん)

「自由度の高さですね。何を研究するか、どうやっていくかは個人の裁量に任せてくれます。自分で決めて、それを先生がサポートしてくれてる感じがです」(伊藤さん)

「自分たちがやりたいことを先生は決して否定しません。それでいて間違えようになると、ちゃんと方向性を示してアドバイスをくれるんです」(唐木田さん)

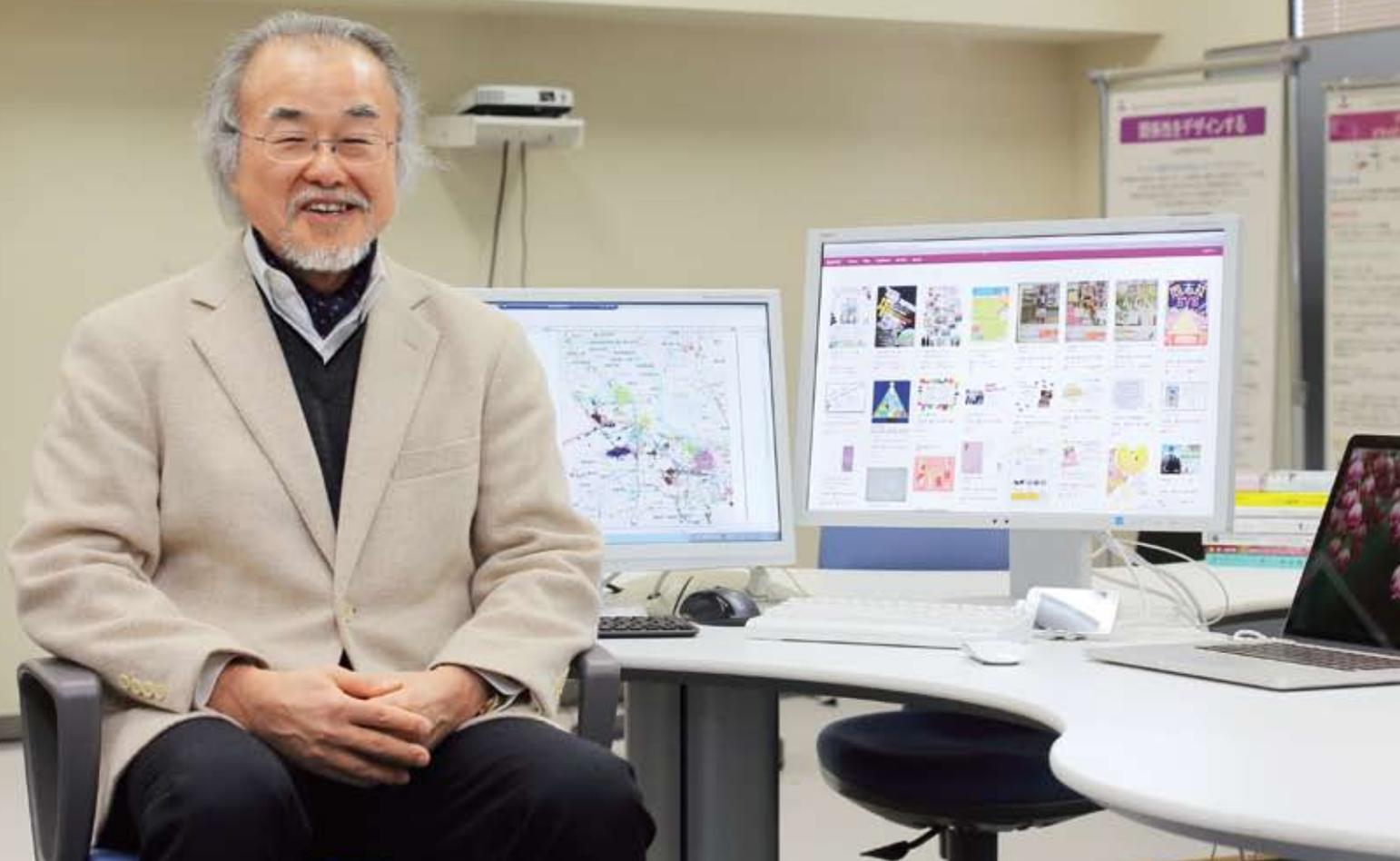
ゼミの授業にぬくもりを感じる理由が、わかったような気がする。

ヒト・モノ・コトの関係性をデザインし、 持続活用できるシステムを創造する

関係論的システムデザイン研究センター

下原 勝憲 [理工学部教授]

世の中にはさまざまなシステムが創られ、運用されている。ヒト・モノ・コトそれぞれの要素が相互に連携・連動して機能する実体としてシステムを捉え、それらの要素の関係性をデザインすることにより、ただシステムを創るだけでなく、持続的に活用可能なものとしていく研究を行っているのが、2010年4月に発足した「関係論的システムデザイン研究センター」である。理工学的方向のみならず人文社会科学分野からもアプローチし、実際のコミュニティで実験プロジェクトを展開するセンターの目的や役割、活動の内容について、センター長の下原勝憲理工学部教授に伺った。



見えない関係に視点を置く

関係論的システムデザインといってもよくわからないと思います。システムという言葉はありふれていますが、きちんと定義づけようとするとなかなか難しい。

例えば、サッカーで言う2トップ4バックというフォーメーション。それぞれのプレイヤーの役割があり、プレイヤー同士が連携して最大のパフォーマンスを発揮するための布陣もシステムです。プレイヤーは顔も動きも見えますが、ボールがどこにあつて相手かどういいう状況のときに誰と誰がどう動くかはプレイヤーの頭の中にはあつても外からは見えません。そうした目に見えない関係に視点を置くというのが、関係論の考え方です。

見えない関係を見える形にすると、それを操作することが可能になりますから、システムのパフォーマンスを高めることもできるようになります。モノとモノで成り立っている関係にヒトが関わり、さらにそこへコト、いわゆるルールが加わるとシステムのパフォーマンスに影響を与えます。プレイヤーであるヒトがボールというモノをめぐるってどう動き、そこにルールというコトが関わってくる。ヒト・モノ・コトが相互に関係してシステムとしての機能が現れるのです。

そうした考え方をいろんな社会システムなどに適用して、何が大事なかを明らかにする。



かにしていく。例えば、インフラがあっても、それを人々がどう使っているのかわからなければ無いのと同じです。器があるだけでそれを使う人がいなければ意味がありません。使うためにどのよう

ができるのです。今までモノづくりというのと、システムを創ることに重きを置いていました。システムを創るといふよりそれを活用するためにどうあるべきか、それはシステムに人が積極的に関わらないと意味がありません。システムは人も含めて成り立つものであり、その中でお互いが成長していくプロセスも含めてシステムとして見ていく。ハードとそれを使う人との関係が成長していくようなシステムが関係論的システム。そういう仕組みをデザインしようというのが関係論的システムデザインです。

なサポートが必要か、その器を地域の人々が経済的に持続可能な形で利用し運営していくようにならないと、システムとしては機能していないことになります。ヒトとモノ、コトが連携するためにはどのような制度や仕組みが必要かを研究するのが、当センターの役割なのです。

コミュニティを関係論的にデザインし直す実験を展開

私たちは、システムは完成することはないと思っています。というのは、システムは人とともに変わっていくものだからです。人がシステムに慣れてくると、利用の仕方を広げていく。それに応じてシステムも機能が拡充していく。そういう仕組みがあつて初めて、そこにいる人たちがシステムを自主的に運営し、活用していくこと

現在取り組んでいるプロジェクトでは、コミュニティを関係論的にデザインし直すそうと試みています。昨年11月、宇治市内のある地区を対象に、そこに住むお年寄りなど約20人に、GPS機能を持ったスマートフォンを持つてもらい、日常の動き、活動の内容を情報として研究室のサーバに取り込み、データ化する予備実験を行いました。

人々が日常生活の中で自然に生み出しているコミュニティとの関わりをデータ化することにより、見えなかった関係が見えてくるようになります。実験では人々の行動にポイントが付くようにしました。どこかへ行ったり人に会ったりするたびにポイントが増える。人や特定の場所との関係に気づきを与え、関われば関わるほどポ

イントが増える仕組みをつくることでコミュニティが活性化します。ポイントを貯めていくだけではなく、その人の1日の行動の度合いによってネットワーク上の植物園にある仮想の植物が成長する仕組みも考えています。1本の植物は1人のお年寄りのアバター。その人のいろんな行動パターンが水分や日光、栄養に換算されて成長していく。植物園では他の人の植物も見ることができません。共同の植物園の中で、地域との関わりを仮想的に体験することにより、自分もコミュニティの一員だということを再確認できるわけです。

こうした実験によって人々の動きの実態がわかれば、自治体はそれをもとに様々な行政施策をより効果的・効率的に展開することができるようになります。2014年度は同じ地域でのフィールド実験を本格化する予定にしています。

もっとも望ましい成果展開の方向

私たちが目標としているのは、コミュニティデザインのプラットフォームを提供しようということです。それを利用することによって、その地域に住む人たちの生活が豊かになる

とともに、システムそのものを自分たちで運用してほしい。単にシステムを創ることではなく、持続的に活用できるものにするのが目的ですから、それができて初めてこのプロジェクトはうまくいったことになるのです。システムが使われることに人が増え、人が増えるとシステムの機能が増えというように、人とシステムが一緒に成長していくしてほしい。関係論的なシステムデザインの仕組みをいろんなコミュニティにどんどん導入してもらえようになれば、それが当センターにとって一番望ましい成果展開の方向です。



Doshisha Alumni Association



MBA留学生との交歓会



The 1st GRAND REUNION 村田 晃嗣 学長 基調講演



2013 ホームカミングデー

同志社校友会活動、同志社大学との連携

世界に広がる「同志社ネットワーク」
32万人超の卒業生が国内外で活躍

同志社校友会

同志社創立から10年後の1885年(明治18年)に「アルムニ(Alumni)会」という名前をもって発足したのが同志社校友会の始まり。同志社小学校、同志社中学校・高等学校、同志社香里中学校・高等学校、同志社国際中学校・高等学校、同志社国際学院初等部・国際部、同志社大学の卒業生および、大学院修了生で組織されている。現在、32万人を超える卒業生が国内外で活躍し、その交流の拠点となっているのが校友会です。

同志社校友会は学生の皆さんを支援する目的で次の事業を行っています。

学生の皆さんへ〔在学中〕

- ① 校友会奨学金(給付型)
 - ② 学生緊急支援制度(学生セーフティネット)
- 同志社で学んでいる学生が、保護者の経済的理由等により学業の継続が困難になった場合に緊急支援を行う制度です。

● 同志社校友会基本方針 ●

同志社校友会は、同志社の発展に寄与するという目的を掲げ、支部の基盤を強化し、大学事業支援、学生支援、卒業後の社会人活動支援に軸を置いて活動を行っています。今年度からは海外支部との連携も深め、大学のグローバルな展開をも支援していきます。



同志社校友会 会長
井上 礼之
昭和32年 経済学部卒業
ダイキン工業株式会社
代表取締役会長兼CEO

1935年生まれ。京都府出身
同志社中学校、同志社高等学校を経て、1957年同志社大学 経済学部卒業。

【主な社外歴】

日本経済団体連合会 常任幹事
関西経済同友会 代表幹事(平成11年～平成13年)
関西経済連合会 副会長(平成13年～現在)
(阪急阪神ホールディングス(株)、関西電力(株)
(株)大阪国際会議場、テレビ大阪(株))四社の
社外取締役 等

- ③ 海外留学支援事業
校友会会員(卒業生)の企業の海外拠点を中心に、学生の皆さんの海外留学や海外インターンシップを応援する仕組みを作ろうとしています。
- ④ 京田辺活性化支援
- ⑤ スポーツ学生支援奨学金(給付型)
- ⑥ 海外留学生支援奨学金(給付型)
海外留学する学生の支援を行っています。

学生の皆さんへ〔卒業後〕

学生の皆さんに覚えておいて欲しいことは、卒業後に国内へ就職が決まったなら、その地域の支部に開催イベント等の問合せをすることです。支部イベントに参加すると、その地域での有用な情報を先輩から聞くことができます。また、場合によっては適切な人脈を紹介してもらえ、可能性もあるでしょう。校友会活動に気軽に参加してください。

- ⑦ 留学生懇親会
2013年は参加者約4000人の規模で開催されました。
- ⑧ その他、Uターン就職等を考えて、各支部(都道府県)組織の確立をしています。

世界に広がる「同志社ネットワーク」

【国内支部】

※ 2014年1月20日 現在

北海道支部 電話:011-382-2188

青森県支部 電話:017-776-2878

岩手県支部 電話:019-662-3671

宮城県支部 電話:022-378-5853

秋田県支部 電話:018-837-3080

山形県支部 電話:0238-23-3222

福島県支部 電話:0248-25-2046

茨城県支部 電話:029-874-2051

栃木県支部 電話:028-622-8844

群馬県支部 電話:0274-23-7774

埼玉県支部 電話:048-854-3788

千葉県支部 電話:047-337-0893

東京支部 電話:03-5704-9660

神奈川県支部 電話:0467-70-2447

山梨県支部 電話:055-237-2977

新潟県支部 電話:025-247-7117

富山県支部 電話:076-483-1140

石川県支部 電話:076-263-0607

福井県支部 電話:0776-51-5267

長野県支部 電話:026-232-2347

岐阜支部 電話:0574-28-0888

静岡県支部 電話:054-202-2082

愛知支部 電話:052-205-9800

三重県支部 電話:059-347-0181

滋賀県支部 電話:077-579-8601

京都支部 電話:075-451-1123

大阪支部 電話:06-6308-2288

兵庫県支部 電話:078-232-7100

奈良県支部 電話:0742-27-1550

和歌山県支部 電話:073-432-5776

鳥取県支部 電話:0859-24-0551

島根県支部 電話:0852-28-5898

岡山県支部 電話:086-233-2046

広島県支部 電話:082-533-6796

山口県支部 電話:0827-23-1210

徳島県支部 電話:088-653-0002

香川県支部 電話:087-861-5066

愛媛県支部 電話:0897-55-7151

高知県支部 電話:088-884-1703

福岡支部 電話:092-632-8222

北九州支部 電話:093-621-3646

佐賀県支部

mail: imaizumi@po2.bunbun.ne.jp

長崎県支部 電話:095-878-4932

熊本県支部 電話:096-243-1221

大分県支部 電話:097-545-0568

宮崎県支部 電話:0985-51-3067

鹿児島県支部 電話:099-202-0732

沖縄県支部 電話:098-937-9112

校友会及び国内外支部の情報は
こちらよりご覧ください。

校友会本部

電話: 075-251-4393

FAX: 075-253-2171

mail: doshisha.alumni@gmail.com

http://www.doshisha-alumni.gr.jp/

【海外支部】

※ 2014年1月20日 現在

● 米国ニューヨーク同志社会

E-mail: nydoshishakaijimukyoku@gmail.com

● 米国中西部

E-mail: t.ishizuka@us.hh-express.com

● 米国西部

E-mail: doshishalaorg@yahoo.co.jp

● カナダ:同志社トロント会

E-mail: nhirose@art-words.com

● カナダ:同志社バンクーバー会

E-mail: doshishavancouver@hotmail.com

● ブラジル:サンパウロ支部

E-mail: yumok@icn.com.br

● 韓国:同志社総同窓会

E-mail: lee.kyusung@jjubiquitous.com

● 香港クローバー会

E-mail: doshisha_hk@yahoo.co.jp

● 北京クローバー会

E-mail: s-yamano@nri.co.jp

● 大連同志社クローバー会

E-mail: huaqing_wang1111@yahoo.co.jp

● 上海クローバー会

E-mail: imamiya@rakuto.com.cn

● 青島クローバー会

E-mail: dongtian@r6.dion.ne.jp

● 台湾

E-mail: elisa@dss-clover.com

● 同志社ベトナム今出川倶楽部

E-mail: t-odagiri@e-sogo.co.jp

● マニラ・クローバー会

E-mail: maekenkyoto@gmail.com

● タイ:泰国同志社クローバー会

電話: 6686-088-3291

● マレーシア新島会

E-mail: yasushi.ota@sumitomocorp.co.jp

● シンガポール・クローバー会

E-mail: umeda@barreloil.com.sg

● インドネシア・クローバー会

E-mail: yoichi_umeda@djt.kanematsu.co.jp

● シドニー・クローバー会

E-mail: terry@noritake.com.au

● 英国クローバー・クラブ

E-mail: ji-int21@mail.doshisha.ac.jp



ホームカミングデー 2013を終えて

11月10日、ホームカミングデー2013を開催しました。雨天にも関わらず、多くの卒業生にお越しいただきました。

今年度のホームカミングデーを開催するにあたり、卒業生と学生の有志で構成する実行委員会を設立し、約8か月間にわたり意見を出し合い、また議論を経て実施にこぎつける事ができました。

今年のテーマは「集う伝統、拡がる未来」。伝統とは、形式や強いられたものでは



なく、古都京都にあつて、同志社が創り上げた文化であり、またこれこそが新島の目指したものであり、未来に繋げていくことだと考えました。

本学はこの10年間に6学部体制から14学部体制へと大きく発展し、新島が築き、卒業生が受け継いできたその精神は、いまも変わらず、伝統として継承されていると言えるでしょう。2014年春から本格稼働した良心館では、学生の主体性と協調性、そして創造性を育むラーニングコモンズという学習スペースを設け、自治自立の精神を引き継ぐ学生の育成を望むべく整備された学習環境を、卒業生の皆様に見学いただきました。

また、今年度の紫熱教室では「幸せ」をメインテーマに掲げ、ビジネス研究科の浜根子教授、経済学部の橋木俊昭特別客員教授、さらには、7月に開催した「志コンテスト」で受賞された社会学部3年次生谷香奈さんのリレー講演やその他、旧邸見学やキャンパスツアー、子供向けのイベント、音楽祭など、卒業生のご家族共々楽しんでいただけたのではないのでしょうか。

次年度もホームカミングデーを通じて、卒業生の皆様が学生時代を思い出し、旧友との再会など、精神に帰る一日を楽しんでいただけるよう企画を充実させたいと思います。

(校友・父母課)

2013年度 秋学期外国語 Honors 認定書授与式

2013年11月21日、クラーク記念館チャペルにて、2013年度秋学期の外国語 Honors 認定書授与式を挙行しました。外国語 Honors 制度(外国語科目成績優秀者表彰制度)は、高度な外国語運用能力と国際的な視野と見識を備えた人材の育成を目標に、外国語について優秀な成績を修めた学生を表彰する制度で、2006年度春学期から導入しています。

授与式では、真山達志教務部長の司会のもと、村田晃嗣学長から祝辞が述べられ、外国語科目成績優秀者一人ひとりに認定書と記念品が手渡されました。

認定を受けたのは、文学部7人、社会学部1人、法学部2人、商学部1人、心理学部1人の計12人で、言語の内訳は、英語5人、中国語5人、スペイン語1人、ロシア語1人でした。

認定書を授与された学生は、左記のとおりです。

■外国語 Honors (英語)

- 安藤しのぶ(文学部・2010年度生)
- 梶田唯(文学部・2010年度生)
- 川本珠早希(文学部・2011年度生)
- 岡本季利(文学部・2011年度生)
- 玉井薫子(法学部・2010年度生)

■外国語 Honors (中国語)

- 高岡靖弘(文学部・2009年度生)
- 神垣友紀子(文学部・2010年度生)
- 中井香那子(法学部・2011年度生)

小澤隆(商学部・2009年度生)

本間葉奈子(心理学部・2011年度生)

■外国語 Honors (スペイン語)

矢野沙也加(文学部・2010年度生)

■外国語 Honors (ロシア語)

杉浦晴美(社会学部・2011年度生)

(今出川校地教務課)

東京オフィスの 移転について

東京オフィスが入居していた日本ビルディングが再開発のため閉館となることから、京橋イーストビルの3階に移転することになり、3月4日から業務を開始しました。

移転するビルは、JR東京駅の八重洲南口から徒歩6分、東京メトロ銀座線「京橋」駅からは徒歩1分と交通の便が良く、また、中央通りに面した大変立地の良い場所に所在している新築物件です。

新オフィスの専有面積は、首都圏における情報発信力を高めるため、598㎡(181坪)と現在のオフィスの2倍の規模となっています。これに伴い、セミナー室や会議室の広さを拡充して大人数での利用に対応できるようにするとともに、新



たにラウンジを設け映像や書籍・パンフレット等により来室者に同志社をアピールするギャラリーを併設しています。また、就職活動で利用する学生からの要望を踏まえ、休憩するためのリラクゼーションスペースとしての畳エリアも設けています。

このように新オフィス

は、機能性を二層向上したものとなっておりますので、教職員・学生・校友の皆様におかれましては、諸活動の首都圏における拠点として多様な用途で活用をお願いします。

住所：〒104-0031

東京都中央区京橋2-17-19

京橋イーストビル3階

電話番号：03-6228-17260

(企画部企画室東京オフィス)



特定寄付奨学金募金 協力者ご芳名

経済的理由で修学を続けることが困難になっている学生を援助するために、2004年4月から「同志社大学特定寄付奨学金募金」を広く社会各界に呼びかけています。

2014年1月末までに、卒業生、ご父母、一般の方々および教職員から以下のおりご協力をいただきました。

	申込件数	申込額
卒業生 ご父母 一般	47件	2,792,800円
教職員	54件	4,510,000円
合計	101件	7,302,800円

〔ご芳名(敬称略、順不同)〕

〔卒業生、ご父母、一般〕

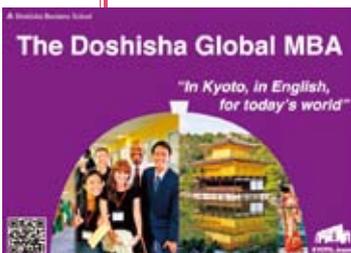
- 900,000円 同志社生活協同組合
- 500,000円 公益財団法人吉田育英会
- 400,000円 同志社校友会
- 297,000円 森田秀夫
- 50,000円
- 三原誠治 株式会社羅生門
- 30,000円 新谷雄二 川向幹男
- 20,000円
- 柴田博昭 甲木宏明 田村稔 青木石根
- 10,000円
- 豊田俊一 前田耕司 松本邦博 佐藤信夫
- 吉村惇 山村倬一 小滝健一 岩本憲彦
- 小林英彦 宮崎順次

ビジネス研究科に新課程開設

本学ビジネス研究科は、2014年度、グローバルMBAコースをさらに発展・充実させ、新たに「グローバル経営研究専攻修士課程」を開設します(10月入学)。

英語で学ぶグローバル経営。
グローバル人材への最短距離。

35か国から集まった留学生と共に学ぶ日本人学生も募集しています!



The Doshisha Global MBA
"In Kyoto, in English, for today's World"
Get your MBA in Japan at Doshisha!
Application for 2014 intake is now open.

問い合わせ先/Contact:
ビジネス研究科事務室/Doshisha Business School (DBS)
E-mail: ji-gmba@mail.doshisha.ac.jp
URL: <http://gmba.doshisha.ac.jp>
TEL: (country code: +81) 075-251-4600

- 50,000円 池内光宏 川野修平 大森和彦 奥山記親夫 和田忠夫 今村浩一
- 〔ご芳名のみ(金額非掲載)〕
- 三上保孝 北野庸介 林青史郎 末永大志 山下文憲 鈴木雄二 富岡努 古賀円 石川裕 本田肇 大下真弓 山下貴代
- 95,000円(匿名合計) 匿名7名
- 〔教職員〕
- 150,000円 工藤和男
- 100,000円 富田安信
- 60,000円 植村巧 三好博昭
- 45,000円 石田修一
- 20,000円 吉川健
- 16,000円 今川晃
- 12,000円 北幸史
- 10,000円 土佐卓司

- 〔ご芳名のみ(金額非掲載)〕
- 奥田みよ子 齋藤憲道 兼重雅好 浜中邦弘 新茂之 加藤千洋 越川弘英 藤井邦宏 上田裕保 林克樹 高田芳樹 勝本勲 戸田裕之 酒井優 ダリシエミシエル 竹田宗継 廣田宗之
- 1,867,000円(匿名合計) 匿名28名
- *教職員の給与控除については、2013年度寄付額(2013年4月〜2014年3月)の金額を掲載しています。
- 当募金は継続的に行っていますので、引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。
- 【お問い合わせ先】財務部資金課
電話番号：075-251-3150
E-mail: ji-sikin@mail.doshisha.ac.jp



はるか桜植樹式

2月26日、今出川キャンパスバスプール広場において、福島県から寄贈された桜「はるか」の植樹式が行われました。

「はるか」は、大河ドラマ「八重の桜」で新島八重を演じた綾瀬はるかさんによって命名された新種の八重桜で、淡紅色の花をつけるといわれています。福島県外では初の植樹となりました。現在は苗木ですが、7〜8年で花を咲かせてくれる予定です。

植樹式には、大谷實総長、水谷誠理事長、景山博福島県大阪事務所長をはじめ福島県復興に携わった学生達も参加し、「はるか」の成長と共に今後も福島・東北を応援していくことを誓いました。

(広報課)

新任教員紹介

授業科目を担当する専任教員を紹介します。
 ①所属(学科/専攻) ②職名 ③主な担当科目



DEBNAR Milos
 (デブナール ミロシユ)
 ①社会(社会)
 ②助教
 ③社会学特講Ⅲ



福田 順
 (ふくだ じゅん)
 ①社会(産業関係)
 ②助教
 ③労働市場論(1)(2)



竹内 幸絵
 (たけうち ゆきえ)
 ①社会(メディア)
 ②助教
 ③広告論



川島 健
 (かわしま たけし)
 ①文(英文)
 ②准教授
 ③英語文化特論A(9)



小林 文広
 (こばやし たけひろ)
 ①文(文化史)
 ②教授
 ③日本地域史研究(1)



勝又 悦子
 (かつまた えつこ)
 ①神(神)
 ②准教授
 ③ユダヤ学概論



佐々木 雅幸
 (ささき まさゆき)
 ①経済(経済)
 ②特別客員教授
 ③創造都市論



奥田 以在
 (おくた いあり)
 ①経済(経済)
 ②准教授
 ③京都経済史



宮本 大
 (みやもと だい)
 ①経済(経済)
 ②准教授
 ③労働経済



石田 葉月
 (いしだ はづき)
 ①経済(経済)
 ②教授
 ③環境と資源



張 博一
 (チョウ ハクイチ)
 ①法(法律)
 ②助教
 ③リーガル・リサーチ



鈴木 絢女
 (すずき あやめ)
 ①法(政治)
 ②准教授
 ③東南アジア地域研究



小島 秀信
 (こじま ひでのぶ)
 ①商(商)
 ②助教
 ③市場と人間



瓜生原 葉子
 (うりゅうはら ようこ)
 ①商(商)
 ②准教授
 ③経営組織論



佐藤 研一
 (さとう けんいち)
 ①商(商)
 ②准教授
 ③国際ビジネス・コミュニケーション論



佐藤 敦紘
 (さとう あつひろ)
 ①経済(経済)
 ②助教
 ③基礎演習



小川 沙有里
 (おかわ さゆり)
 ①経済(経済)
 ②助教
 ③基礎演習



金 仙淑
 (キム サンスク)
 ①経済(経済)
 ②助教
 ③基礎演習



江本 顕雄
 (えもと あきら)
 ①理工(電気工)
 ②准教授
 ③電気回路学I



伊藤 彰人
 (いとう あさひと)
 ①理工(エネルギー機械工)
 ②准教授
 ③機械力学I・同演習



壬生 裕子
 (みぎひろこ)
 ①政策(政策)
 ②助手



高森 桃太郎
 (たかもり ももたろう)
 ①商(商)
 ②助教
 ③アカデミック・リテラシーI



酒井 絢美
 (さかい あやみ)
 ①商(商)
 ②助教
 ③アカデミック・リテラシーI



柿澤 寿信
 (かきざわ ひさのぶ)
 ①商(商)
 ②助教
 ③基本統計学



日野 真紀子
 (ひの まきこ)
 ①商(商)
 ②助教
 ③アカデミック・リテラシーI



藤岡 勲
(ふじおか いさお)
①心理(心理)
②准教授
③発達・教育心理学
実験演習(1)



中村 雅俊
(なかむら まさとし)
①スポーツ健康科
(スポーツ健康科)
②助教
③基礎実習



大平 充宣
(おおひら よしのぶ)
①スポーツ健康科
(スポーツ健康科)
②特別客員教授
③スポーツ健康科学
特論特別講義A



庄子 博人
(しょうじ ひろと)
①スポーツ健康科
(スポーツ健康科)
②助教
③スポーツ・マネジメン
ト論



**Anggi Eka
PUTRA**
(アング エカ プトラ)
①生命医科学研究科
②助手



池川 雅哉
(いけがわ まさや)
①生命医科
(医生命システム)
②教授
③神経情報伝達制御学



吳 魏
(ゴ ウイ)
①理工学研究科
②助手



鄭 柚鎮
(チョン ユジン)
①グローバルスタディーズ
(グローバルスタディーズ)
②助教
③特殊研究B11(東アジ
アの平和と人権1)



菅野 優香
(かんの ゆうか)
①グローバルスタディーズ
(グローバルスタディーズ)
②准教授
③アメリカのジェンダー
と社会1・2



秋林 こずえ
(あきはやし こずえ)
①グローバルスタディーズ
(グローバルスタディーズ)
②教授
③アメリカの外交と政治
1・2



大木 清香
(おおき ざやか)
①グローバル地域文化
(グローバル地域文化)
②助教
③ドイツ語インテングI



乘松 亨平
(のりまつ しょうへい)
①グローバル地域文化
(グローバル地域文化)
②助教
③現代地域事情・上級講
読(ロシア語圏)1



二村 太郎
(ふたむら たろう)
①グローバル地域文化
(グローバル地域文化)
②助教
③南北アメリカ地域文
化特論4



Benjamin SALAGNON
(バンジャマン サラニョン)
①グローバルコミュニケーション
(グローバルコミュニケーション)
②助教
③Communicative Skills
in French



橋之口 道宏
(はしのくち みちひろ)
①研究開発推進機構
②准教授



春田 正和
(はるた まさかず)
①研究開発推進機構
②准教授



**Adam Lucas
JOHNS**
(アダム ルカス ジョンス)
①ビジネス研究科(グ
ローバル経営研究専攻)
②准教授
③Cultural and
Creative Industries



**Keith Geoffrey
JACKSON**
(キース ジェフリー ジャクソン)
①ビジネス研究科(グ
ローバル経営研究専攻)
②教授
③People and
Organization



横田 光平
(よこた こうへい)
①司法研究科(法務)
②教授
③行政法講義(総論)



山口 航
(やまぐち わたる)
①アメリカ研究所
②助教



森下 俊三
(もりした しゅんぞう)
①ビジネス研究科
②特別客員教授
③イノベーションマネ
ジメント



高柳 真司
(たかやなぎ しんじ)
①高等研究教育機構
及び理工
②助教



松森 智彦
(まつもり ともひこ)
①高等研究教育機構
及び文化情報
②助教



藤原 佐和子
(ふじわら さわこ)
①高等研究教育機構
及び神
②助教



江頭 良明
(えがしら よしひろ)
①高等研究教育機構
②助教



森 靖典
(もり やすのり)
①高等研究教育機構
②准教授



北村 浩
(きたむら ひろし)
①研究開発推進機構
②准教授



長田 直樹
(ながた なおき)
①研究開発推進機構
②教授



藤岡 慧明
(ふじおか えみょう)
①高等研究教育機構
及び生命医科
②助手



渡邊 扇之介
(わたなべ せんのすけ)
①高等研究教育機構
及び理工
②助手



芋野 美紗子
(いもの みさこ)
①高等研究教育機構
及び理工
②助手



木下 健
(きのした けん)
①高等研究教育機構
及び政策
②助手



沼田 潤
(ぬまた じゅん)
①高等研究教育機構
及び社会
②助手



宇多 瞳
(うた ひとみ)
①高等研究教育機構
及び文
②助手



田中 美里
(たなか みさと)
①高等研究教育機構
及び理工
②助教

退職教員 2014年3月31日付で、次の先生方が退職されました。

- 文学部 露口卓也 教授
- 文学部 Simon HUMPHRES 助教
- 社会学部 浅野健一 教授
- 社会学部 森山智彦 助教
- 社会学部 勝野宏史 助教
- 法学部 中西敏和 教授
- 法学部 瀬岡直 助教
- 法学部 藤林大地 助教
- 経済学部 室田武 教授
- 経済学部 中尾武雄 教授
- 経済学部 大野節夫 教授
- 経済学部 橋木俊詔 特別客員教授
- 商学部 亀田尚己 教授
- 商学部 鶴飼哲夫 教授
- 商学部 村井明彦 助教
- 商学部 陶静 助教
- 商学部 横田耕祐 助教
- 商学部 永田修一 助教
- 政策学部 川北泰伸 助手
- 政策学部 柴田悠 准教授
- 理工学部 雨谷昭弘 教授
- 理工学部 加納航治 教授
- 理工学部 小泉孝之 教授
- 理工学部 三井斌友 教授
- 理工学部 実験実習センター
井上泰江 実験講師
- 理工学部 西田昌史 准教授
- スポーツ健康科学部 富居富 教授
- 心理学部 早樫一男 教授
- グローバル・コミュニケーション学部
Monique LE LARDIC 准教授
- グローバル地域文化学部
有満保江 教授
- グローバル地域文化学部
諫早勇一 教授
- グローバル地域文化学部
岸孝信 准教授
- グローバル地域文化学部
宮地隆廣 助教
- グローバル地域文化学部
越智礼子 助教
- グローバル地域文化学部
Jan JURACHER 助教
- グローバル地域文化学部
Jane A. WARD 助教
- 総合政策科学研究科 山口栄一 教授
- グローバル・スタディーズ研究科
佐々木隆 教授
- グローバル・スタディーズ研究科
荻野美穂 教授
- 司法研究科 金子正史 教授
- ビジネス研究科 金子周平 教授
- ビジネス研究科 戸谷圭子 准教授
- ビジネス研究科
Yehoub Kholjsten GHAMARI 准教授

本学教員の執筆図書紹介

図書館調べ(価格は税別)

もっと知りたい河鍋曉斎…生涯と作品
狩野博幸 著 東京美術 1,800円
産業教育・職業教育学ハンドブック
二山雅子 他 著 大学教育出版 3,800円

**T・S・エリオットの作品と本質…
モダニズム的知性の結晶**
田口哲也 著 音羽書房鶴見書店 3,500円
認知言語学…基礎から最新線へ
長谷部陽一郎 他 著 くろしお出版 2,500円
カノッサへの道…歴史とロマン
井上雅大 著 関西学院大学出版会 4,200円

- 変貌する日本のコンテンツ産業…
創造性と多様性の模索**
河島伸子 他 編著 ミネルヴァ書房 8,000円
- 人物で読む西洋社会福祉のあゆみ**
木原洋信 他 著 ミネルヴァ書房 3,000円
- 人文地理学事典**
二村太郎 本岡拓哉 他 著 丸善出版 20,000円
- アジア太平洋の新通商秩序…
TPPと東アジアの経済連携**
岡本由美子 他 著 勁草書房 4,000円
- テキスト国際会計基準 第6版**
櫻井貴憲 他 著 白桃書房 3,300円
- ニッポンが変わる、女が変わる**
浜矩子 他 著 中央公論新社 1,500円
- 電気工学ハンドブック 第7版**
稲葉稔 他 著 オーム社 45,000円
- 日本経済の新地平**
八田英一 他 編著 佐竹光彦 北川雅章 他 著
晃洋書房 3,000円
- 子どもが伸びるほめる子育て…
データと実例が教えるツボ**
太田肇 著 筑摩書房 740円
- 経営学史叢書 V パーリー・ミンズ**
今西宏次 他 著 文真堂 1,500円
- 条解刑法 第3版**
杉田宗久 他 著 弘文堂 9,500円
- 地域のへ実践へ変える社会福祉調査入門**
永田祐 他 編著 春秋社 2,500円
- 知的財産法の挑戦**
井関涼子 河島伸子 山根崇邦 他 著 弘文堂 4,800円
- 「島ぐるみ闘争」はどの準備されたか…
沖繩が目指すあま世への道**
富山一郎 他 著 不二出版 1,800円
- 選挙と民主主義**
飯田健 他 著 吉田書店 2,800円
- モンゴル…草原生態系ネットワークの崩壊と再生**
山村則男 他 著 京都大学学術出版会 6,800円
- 労働法と現代法の理論**
西谷敏先生古稀記念論集 上
土田道大 他 著 日本評論社 8,500円
- 裁判員のあたまたち…14人のはじめて物語**
杉田宗久 他 著 現代人文社 2,200円
- ヨーロッパ私法の原則定義・モデル準則…
共通参照枠草案(DCFR)**
- 荻野奈緒 梶山玉香 野々村和喜 他 訳
法律文化社 8,500円
- アカウンティング・グローバル・エシジョン論**
百合野正博 編 百合野正博 田口聡志 他 著
同文舘出版 3,200円
- 生活保障の戦略…教育・雇用・社会保障をつなぐ**
埋橋孝文 他 著 岩波書店 1,700円
- 模範六法 2014 平成26年度版**
森本滋 他 編修顧問 三省堂 5,400円
- 中国経済史**
敵善平 他 著 名古屋大学出版会 2,700円
- 世界地名大事典7 北アメリカI**
二村太郎 他 著 朝倉書店 32,000円
- 「日出新聞」記者金子静枝と明治の京都…
明治二十一年古美術調査報道記事を中心に**
竹居明男 編 竹居明男 他 著 芸艸堂 6,000円
- 王朝の歌人たちを考える…交遊の空間**
廣田収 他 著 武蔵野書院 3,000円
- 世界地名大事典8 北アメリカII**
二村太郎 他 著 朝倉書店 32,000円
- 高電圧工学**
馬場吉弘 他 著 オーム社 2,700円
- 債権総論 第2版 論点体系判例民法4**
佐々木典子 他 著 第1法規 5,100円
- バイオ液体燃料**
日高重助 他 著 エヌティール・エス 42,400円
- 開発政治学への展開…
途上国開発戦略におけるガバナンス**
小山田英治 他 著 勁草書房 6,000円
- 老楽国家論…反アベノミクスの生き方のススメ**
浜矩子 著 新潮社 1,200円
- アメリカ文化55のキーワード**
白川恵子 他 著 ミネルヴァ書房 2,500円
- 学生と楽しむ大学教育…
大学の学びを本物にするFDを求めて**
清水亮 他 編著 圓月勝博 他 著 ナカニシヤ出版
3,700円
- 現代教育制度改革への提言 下巻**
山田礼子 他 著 東信堂 2,800円
- 地域公共人材をつくる…
まちづくりを担う人たち**
今川晃 他 編著 法律文化社 2,400円
- 会社・金融法 上巻**
船津浩司 他 著 商事法務 10,000円

河内一友さんに聞く

インタビュー
あきもと しゅんや
穂本 峻也 さん
「社会学部教育文化学科3年次生」



穂本 ● 私は同志社学生放送局の第62代局長を務めていて、将来のキャリアとして放送業界も考えています。まず最初に、河内さんが放送局を志望された理由をお聞かせいただけますか。

河内 ● 私が放送局に入ったかったのは、ラジオで漫才や落語などの演芸ものの番組を作りたいからです。小学校5、6年生の頃、両親に連れられて行った京都の南座で、桂米朝さんの落語を初めて聞いたことがきっかけです。ひとりの人が話をして場内がワーツと笑う。すごいなと思いました。たまたまそれがある放送局の公開録音で、フロアディレクターが仕事をしているのを見て、子ども心に面白い職業があるなと思ったのです。その気持ちがずっとあって、大学を選ぶときに同志社大学の募集要項で文学部社会学科新聞学専攻を知り、そこに大衆文化論や大衆演芸論、放送論といったカリキュラムがあった。行くならここだと思いました。

穂本 ● 毎日放送入社後はどんな道程を歩んでこられたのでしょうか。

河内 ● 当然、私が希望したのは制作部門だったのですが、下りた辞令は営業、それも東京支社でした。当時から放送局は学生たちの羨望の的で、せっかく激戦をかくぐって入社できたのに、やりたかった制作ではなく営業。本当にショックで、就職浪人してもう一度やり直そうかと思ったぐらい

落ち込みました。

穂本 ● そこからどうやってモチベーションを高めていかれたのですか。

河内 ● 上司に相談したらこう言われたのです。毎日放送という会社は仕事の上では先輩も後輩もない。みんな横一線。新人だからといって、臆せずやってみろ」と。私も気持ちを切り換えるのが上手だったのでしようか。クサッていてもしょうがない、サラリーマンなのだから会社からここへ行けと言われたらそれに従って行くのが当たり前だと思うようになりました。結局、東京支社テレビ営業第1部に24年、ラジオ営業部に2年、サラリーマン人生の3分の2は東京で営業をやってきたことになりました。どこにいても、どんなことをしていても、仕事の苦しさというものは付いてくるものです。それは社長になっても変わりません。

穂本 ● 私も放送局長として1年間活動をしてきて、キャンパス再編で学部の移動があったこともあり、約1500人いる放送局

今回の同志社人

かわうち かずとも
河内 一友さん

【1971年 文学部社会学科
新聞学専攻卒業】

1947年生まれ、京都市出身。1971年株式会社毎日放送入社。1993年東京支社テレビ営業第1部長、1995年同支社ラジオ営業部長、1999年事業局長、2002年取締役事業局長。2003年常務取締役を経て、2007年代表取締役社長に就任し、現在に至る。



の組織体制の改変に迫られました。よかれと思ってやっても、反対する人たちが出てきます。精神的にも追い込まれることが多いのですが、そんな時はどうすればいいのでしょうか。

河内 ● これまでにもいろんなことがありましたが、その時に私がいつも思ったのは「100%の答案用紙は書けない」ということです。全員に満足してもらう答案用紙なんて書けるわけがないのです。6割の人が了解してくれたらいい。その結果、やってみると7、8割の人が理解してくれている。反対の意見を持っている人は必ずいます。でもそれは仕方がないことです。大学でいえ

ば、優を取らなくても可でもいいのです。優にしても100点ではなく80点で取れるのです。そういう開き直りが大事です。学生の間は黒と白しかないかもしれませんが、社会に出ると黒と白の間にいろんな色があります。グレーでも白っぽいグレーもあれば、黒っぽいグレーもある。1+1が2ではなく、3の場合もあれば0.5の場合もある。それを気にしては何もできません。そういうことに、私は長いサラリーマン生活の中で気がつきました。でも、穂本さんが今、真面目で真っ直ぐな考えを持っているのはいいことですよ。

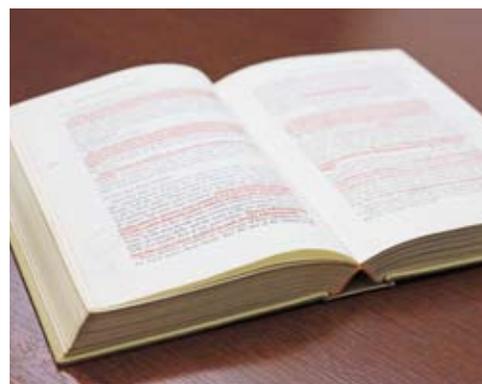
穂本 ● ありがとうございます。とても勇気

づけられました。そんな河内さんは同志社大学時代、どんな学生生活を送ってこられたのですか。

河内 ● 私は高い授業料を負担してもらっている両親に、勉強でお返ししないといけないという気持ちがあつく強かったのです。だから、授業をサボるなどということはまったく考えませんでした。時間が空いたときには、図書館に行って本を読んでいた。実家が烏丸五条でしたから、通学は自転車。授業がおわると、学習塾でアルバイトをし、それで稼いだお金は土日の登山に充てていました。平日は授業で埋まっていたから、大学のサークルで時間を作るのは無理だと思い、社会人の山岳会に入れてもらっていたのです。一般の大学生から見ると面白い学生生活だと思われるかもしれませんが、大学での4年間は本当に時間を使い切ったという自負があります。

穂本 ● その4年間で、何か思い出に残っているようなことはありますか。

河内 ● 大学時代で思い出すのは、素晴らしい先生に出会えたことです。とくに鶴見俊輔先生にはとても影響を受けました。私が3年次生の時に辞められたのですが、クラーク記念館の2階で行われていた先生の授業が原書講読。有名な先生なので登録する学生も多いだろうと思っていたら、たったの9人。順番に2〜3ページ読んで要約していくのですが、1人抜け、2人



河内社長が学生時代に原書講読で使用していたSchrammの「Mass Communications」。細かい書き込みがびっしりとされている。

抜けして最後は4人になってしまいました。マス・メディア研究の古典Schrammの「Mass Communications」が授業のテキストです。随分絞られました。最後まで欠席なし。いろんな本は処分しましたが、これだけはずつと残しています。いわば私の勲章です。鶴見先生には「大学教育を受けたからといって、偉いと勘違いしてはならない。みんな同じ大衆なのだから、同じ目線を持たなければいけない」と教えられました。番組づくりには一般の視聴者、聴取者の皆さんと同じ視線に立つことが必要です。それがまさに鶴見先生がわれわれに語ってくれたことです。同志社大学の校風も、そうした目線を低くする、権力におもねるのではなく、在野精神に拠って立つところにあるのではないかと思いますね。

穂本 ● 私は大学の入学課でアルバイトをしていて、全国各地の入試説明会に学生アドバイザーとして出かけているのですが、そこで受験生や保護者の方に同志社大学のことを聞かれた時、同志社らしさや校風

をしつかり伝えようと心がけています。

河内 ●「人材」とよく言われますが、私はこの言葉にあまりいいイメージを持っていないのです。「良い人材」というのは、たくさん知識や優れた技術力を持った人。同志社大学はそうした「人材」を育てるのではなく、内面に深いものを持った「良い人物」を育てる大学だと思っています。村田学長は私に、そこが新島襄の精神だと教えてくれました。新島襄はアーモスト大学で文学、歴史、哲学などリベラルアーツを学んだ、まさに内面的な深みを備えた「良い人物」です。グローバル人材ともよく言いますが、アメリカではアーモスト大学で勉強した人がハーバード大学のロースクールやビジネススクールに行く。そういう人たちと世界で向き合っていくには、リベラルアーツを学んだというベースが必要なのです。だから、私も残された時間でそういう内面的な成長につながる勉強をしてほしいと思います。

穂本 ●毎日放送および放送業界の将来、今後の展望についてお聞かせください。

河内 ●毎日放送は日本で最初にスタートした民間放送局です。1951年9月1日、名古屋の中部日本放送とともに、新日本放送という名前でラジオの電波を送り出しました。公共放送としてNHKはありましたが、スポンサーが付いて放送するという民間の放送モデルはまだなかったのです。その意味

では、今で言うベンチャー企業だったと言えるでしょう。先人たちはたくさん苦労を乗り越えながら、パイオニア精神を発揮して現在の毎日放送を築き、放送業界をリードしてきました。そうして築き上げてきたものを、私たちはこれからも守り続けていかなければなりません。ラジオ・テレビ兼営局としてラジオを守っていくこともその一つです。阪神大震災や東日本大震災で貴重な情報メディアとなったように、ラジオの存在価値は大きいのです。一方、テレビは番組の質が問われていて、このままでは衰退していくのではないかと言われています。どのチャンネルに合わせるかも、やっていることは同じだという批判は、確かに当たっています。私たちも真摯に反省しないとイケません。しかし、テレビがなくなることは絶対にありません。テレビの見られ方は変わって

ていますが、テレビそのものは変わっていないのです。スマートフォンやインターネットと共存する新たな仕組みを考え、再びパイオニア精神を持って新たなテレビ・ラジオをつくっていきたくと思っています。

穂本 ●放送業界はまだまだ発展するということですね。

河内 ●毎日放送はこの4月、新社屋がグラインドオープン。58年ぶりに経営機能と生産機能が同じ場所に揃いましたので、そこからみなさんに喜んでもらえるような番組をお届けしていきたいと思っています。当社の企業理念は「スーパーリージョンナルステーション」です。これは関西という地域が持つ素晴らしい魅力を番組やイベントの形にして、全国へ、そして世界へ発信していくということですね。さらに魅力のある番組を、新しい本社屋のスタジオから送り出して



INTERVIEWER

穂本 峻也さん

社会学部教育文化学科 3年次生

山口県出身。1年次より学生放送局に入局し、昨年第62代放送局長に就く。昨年11月に行われた第30回NHK全国大学放送コンテストでは音声CM部門第1位に導いた。入学課の学生アドバイザーも1年次から務めており、地方の受験生により充実した同志社大学の情報を伝えることに意欲を持つ。

「100%の答案用紙は書けない」の言葉に感銘

私はラジオが好きで学生放送局に入りましたから、河内さんのラジオにかける思いを伺うことができたのはとてもうれしいことでした。私は周りの人たちからもよく言われるのですが、完璧主義のところがあって、常に100%を求めてしまいがちです。完璧を求め過ぎるがゆえに、問題も自分の中で抱え込んでしまい、人に相談することもあまりしません。自分で何とかしようと思ってしまうのです。だから、河内さんに「100%の答案用紙は書けない」「6割の人に理解してもらえばいい」と言われたことが、すごく心に残りました。そういう考え方を持っておけば自分が楽になるし、プラス思考にもなれます。これからもずっと大切にしていきたい言葉です。

く。面白い企画をたくさん考えていますから、楽しみにしてください。

穂本 ●私も1人の視聴者として期待しています。本日はお忙しい中、ありがとうございます。

地域を活性化し、ふるさとの人々の役に立ちたい。 その思いが原動力。

公務員など公共的な仕事で人々の役に立ちたいと思うようになったのは、経済学部で徳岡ゼミに入り、地域の発展と公共に携わる部門の役割の大きさや奥深さに関心を持ったことがきっかけです。その後、地域経済の発展の方向性を研究したいと考え、総合政策科学研究科に進学しました。京都で社団法人や財団法人の仕事をしましたが、やはり故郷で地域の活性化に取り組みたいという思いが強く、越前市役所に入ったのが、2006年のことです。

入庁後は教育委員会スポーツ課に2年、企画部政策推進課に2年、現在の福祉保健部子ども福祉課に異動して4年目になります。現在は児童手当の支給事務などを担当。市民との窓口対応が多い職場です。特に子どもに関係した制度は、新設や変更が頻繁にあるため、常にアンテナを広く張り、情報の早期キャッチや法令施行後の迅速な対応が求められます。さらに重要なのは、個別に異なる事情を抱えた家庭、市民に対しての細やかな対応です。法律に書いてあるから、政令や省令がそうになっている

からと、一律に進めてしまいうわけにはいきません。少しでも実情に沿うように考えていくことが、公務員として市民生活に最も近い私たち市役所職員の役割なのです。

その意味で大変さを実感したのは、現在の部署に異動した直後、先の政権交代によって児童手当から子ども手当へ、またその後、再度児童手当へと、目まぐるしく制度変更が実施された時のことです。変更がどのタイミングであったとしても、期日には必ず手当を支給しなければなりません。それまでに支給対象家庭から申請書を提出してもらい、その膨大な書類をチェックし、システムが無事に稼働するかどうかを確認します。予算管理や関連部門との調整も必要です。短期間に複数の事務を同時進行で仕切るといふ経験はハードでしたが、体力的にも精神的にも鍛えられました。

今、私たち地方公務員には、行政とその地域を熟知するものとして地域の発展を下支えすることに加え、グローバル化が進む社会の中で時代の流れを読み、半歩先を進み、様々な主体との間をとりなす

水先案内人“のような役割が求められていると感じています。

学生時代、最も力を注いだのはESSでの活動でした。そこでは多くの人と出会い、お互いに切磋琢磨し、人間としての感性を磨いたことが大きな財産になっています。私が卒業生として在学生のみなさんにアドバイスできるとしたら、新島襄の言葉にもある「安逸を貪らないこと」です。自由な時間と環境を活かし、様々な立場の人と出会って視野を広げ、とくに想像力を豊かにすることは、感受性が高い学生時代に経験しておくべきです。それはすぐには役に立たないかもしれませんが、物事の本質を見抜く目として、未来を切り開いていく力として、いつか芽を出す時が必ず来ます。

中村 圭介さん【2004年 総合政策科学研究科修了】

越前市福祉保健部子ども福祉課
次世代育成グループ 主査

越前市に隣接した南越前町生まれ。昨年10～11月に開催された「たけふ菊人形」では、テーマが大河ドラマの「八重の桜」だったことから、市の職員としてはもちろんだが、同志社の卒業生として菊人形展の運営に奔走。「卒業生のつながりが大変ありがたかった」と振り返る。自身の公務員生活に大きく影響を与えたのは、3年前の東日本大震災。発生直後、越前市でも支援物資を集め、現地に送った。「地域の方々からご提供いただいた様々な物資を仕分けし、箱詰めしていく。その作業に地元の高校生が何も言わないのに自分たちから手伝ってくれたのです。一生懸命な彼らの姿を見て胸が熱くなりました。ご協力いただいたみなさんの思いはしっかりと被災地に届けなくてはと、公務員魂に火が点きました」と言う。「公務員として困っている人を放っておくわけにはいかないという気持ちはずっと持ち続けています」と、真っすぐな目で語った。

自分のベストな決断に全力で取り組めば、進むべき方向が見えてくる。

マーケティング部で、新規会員向けの

ロイヤリティ向上プログラムの企画、会員向けウェブサイトの運用やウェブ利用の促進キャンペーンなどを担当しています。ウェブサイトやDMなどの媒体を通じて、カード会員にアメリカン・エキスプレス(アメックス)の特典をご紹介する仕事です。アメックスの顧客は、サービスへの期待度が高いため、イメージを損なわないコミュニケーションに一番気を配っています。また、海外で作られたシステムやコミュニケーションを日本のマーケットにも合うようにアレンジして導入・実施することを心がけています。

私は今、お客様がカードを利用するさまざまなシーンに合わせて、メールをお送りする仕組み作りに携わっています。中でも、初めてカードを使っていたいた新規の会員にメールを送り、ポイントを抽選でプレゼントするキャンペーンには、多くの方に参加いただき、ご好評をいただきました。このアイデアは、時差で連絡が取りにくいアメリカ本社とやり取りしながら、いろいろな部署にも協力してもらい、何とか世に出たもので、結果を出すことが

でき、大きな自信になりました。ダイレクトにお客様の反応がわかり、自分の仕事に結果が見えるのが魅力です。

大学生の時には、留学生と交流するサークル(DES)で活動していました。スタインフォードセンターの学生との交流がメインの活動で、鴨川の河川敷でスポーツをしたり、ゴスペルを歌ったり、自主映画を作った時には企画を担当しました。そんな中で物事を進めていくためには、自分の意見を持ち、かつ相手の意見も取り入れながら柔軟に対応しなければ難しいということとを学びました。

そうした留学生や留学を経験した人たちの交流の中で、私自身も海外で生活してみたいという思いが高まり、1年間休学してアメリカシアトルへ留学。ウェブ関係のベンチャー企業でインターンシップも経験しました。社内には業務とは別に、ダイバーシティアンドインクルージョンズという委員会があります。世代、性別、国籍などお互いの違いを尊重し、アメックスの強みとしてダイバーシティ(多様化)を社内でも推進する組織です。昨年1年間、そこで活動し、本来の業務とは違ったところ

でもサークルで得た力や留学経験を活かすことができたと感じています。

今はどちらかというと、国内のお客様に近いところで仕事をしたいという思いがありますが、将来的には新規会員の獲得やプロダクトなど、他のマーケティング分野の仕事にも幅広く挑戦していきたいと考えています。

海外を含む空いたポジションには、社員が自由に応募できるシステムがあるので、そんな機会も生かせるよう、自分なりのベストな決断をしていこうと思っています。



そう
宗 恵理子さん 【2003年 文学部文化学科国文学専攻卒業】

アメリカン・エキスプレス・インターナショナル、Inc.

個人事業部門 マーケティング部 アシスタントマネージャー

大学卒業後、最初に就職したのは大手家電メーカー。そこで、新商品の販売促進を担当し、ダイレクトに反応が返ってくる仕事の面白さに目覚めた宗さん。その後、コンサル会社でプライベートブランドのマーケティングを担当し、アメリカン・エキスプレスは3社目。着実にキャリアアップを図ってきた。その原動力となったのは、人との出会い。「学生時代は、勉強やボランティア活動に全力で取り組む友だちの姿を見て、私も頑張らなくてはと刺激を受けました。最初の家電メーカーでも、こんなふうになりたいと思う先輩に出会い、だんだんと自分の将来の方向性が定まってきました。社会に出たからも、新しい仕事を任せたり、異動したり、転職する中で、自分の進む道が明確になっていくポイントが何度かあります。在校生の皆さんには就活を最後の選択と思わず、色々試すこと、いろんなところへ出て、たくさんの人と出会うことで人生のターニングポイントのチャンスを見つけてほしいですね」

- 4月22日(火) 《ミュージカル!》
16:30『トップ・ハット』(1935年/アメリカ/99分/
監督:マーク・サンドリッチ)
18:20『ジンジャーとフレッド』(1985年/イタリア・
フランス・西ドイツ/128分/
監督・原案・脚本:フェデリコ・フェリーニ)
入場無料

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270
※内容は都合により変更となる場合があります。5月以降も毎週火曜日、映画上映などを予定しています。詳細はお問い合わせください。

♪観に行こう聴きに行こう♪

—学生団体4月～5月の活動予定—

【学内】

- 4月3日(木)～5日(土) 学生保健部会「アルコールパッチテスト」
臨光館前 10:00～16:30 無料
- 4月10日(木) 交響楽団「新歓演奏会」寒梅館 ハーディーホール
17:00～(16:00開場) 無料
- 4月12日(土) マジック&ジャグリングサークルHocus - Pocus
「新歓ステージ」京田辺 多目的ホール
12:30～13:00(12:00開場) 無料
- 4月18日(金) マジック&ジャグリングサークルHocus - Pocus
「新歓ステージ」寒梅館 ハーディーホール
18:30～19:00(18:00開場) 無料
- 4月18日(金) 19日(土) 20日(日) 同志社小劇場「四月新歓公演」
新町キャンパス 新町別館小ホール
18日 18:00～ 19日 14:00～/18:00～ 20日 14:00～ 無料
- 4月20日(日) 軽音楽部「OB・OGジョイントコンサート」
寒梅館 ハーディーホール
13:05～(12:30開場) 入場料 1,000円
- 4月24日(木) neuf「neuf 新歓ショー」
寒梅館 クローバーホール
12:45～(12:30開場) 無料
- 4月25日(金) 喜劇研究会「新歓ライブ(お笑いライブ)」
寒梅館 クローバーホール
12:30～(12:00開演) 無料
- 5月4日(日) アニメーション・ヴォイス研究会「未定」
寒梅館 ハーディーホール
15:00～17:00(14:00開場)予定 入場料 1,000円
- 5月14日(水) 軽音楽部「新入生歓迎コンサート」
寒梅館 ハーディーホール
15:00～(14:30開場) 無料

【学外】

- 5月25日(日) マンドリンクラブ
「第164回定期演奏会 -石村隆行先生招聘20周年記念-」
長岡京記念文化会館
14:00～(13:30開場) 入場料 1,000円

応援に行こう!～体育会試合日程

開催日時等は変更されることがあります。

【トライアスロン部】

- 5月18日(日) 日本学生スプリングトライアスロン選手権兼全日本
大学トライアスロン選抜
場所:群馬県渡良瀬遊水地

- 6月22日(日) 近畿学生トライアスロン選手権(インカレ予選)
場所:愛知県蒲郡市

第32回函館キャンプ参加者募集

創立者・新島襄が1864年に国禁を犯して脱国した地、北海道函館市を訪れます。今年は脱国150年のメモリアルイヤーです。新島襄の生き方に触れ、人と人とのふれあいの中で自分自身を見つめ直そうという趣旨で行われます。学生が主体となってつくり上げるプログラムです。

【実施期間】8月中旬 ※出発前に5回程度のミーティングを行います。

【お申し込み】4月下旬～5月下旬

【参加費用】29,000円(予定)

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

※今出川校地、京田辺校地で、それぞれ説明会を開催します。詳細は後日HP等でお知らせします。

ROOM記念館プロジェクトメンバー募集!

同志社ROOM記念館では、毎年、様々なテーマでITやデジタルコンテンツの制作、活用をめざす1年間のプロジェクトが活動しています。現在、本年度採択されたプロジェクトに参加するメンバーを募集しています。

同志社大学・女子大学の学生を中心に、学部学科を越えた多様なメンバーで構成されたプロジェクトチームによる活動だから、刺激も学びもいっぱい。5月には、プロジェクトメンバーを対象にしたワークショップなど、活動のスタートをスムーズにするためのプログラムも用意しています。プロジェクトの一覧やメンバー申込票のダウンロードは、ROOM記念館ホームページ(<http://roh.m.doshisha.ac.jp/>)からどうぞ。

メンバー募集に関するイベント

- 4月2日(水)～5日(土) 10:00～15:00「プロジェクト説明会」
ROOM記念館入り口付近でブースを出展します。
- 4月17日(木) 16:45～19:00「プロジェクト交流会」
劇場空間で各プロジェクトからのプレゼンテーションと、終了後、誰でも参加できる交流会をおこないます。(食事有り。無料)
- 4月21日(月)～25日(金) 16:30～18:30「プロジェクト個別説明会」
各チームが活動拠点であるルームにて個別に説明会をおこないます。各イベントの詳細はWebサイトや広報誌「ippo」をごらんください。

【お問い合わせ先】京田辺校地総務課(ROOM記念館事務室)

TEL:0774-65-7800

E-mail:jt-rohm@mail.doshisha.ac.jp



障がい学生支援制度 サポートスタッフ大募集!

同じキャンパスで学ぶ障がい学生(Challenged)の立場に立って、責任をもって支援活動に取り組んでくださる方を募集しています。初めてでもできることはたくさんありますので、ぜひスタッフに登録して、パソコン通訳・ノートテイク・映像字幕付け・代筆・車椅子介助などの活動にご協力ください。謝礼をお支払いいたします(880円/時間)。その他行事・イベントも充実しています。詳しくは障がい学生支援室HP(<http://challenged.doshisha.ac.jp/>)で随時お知らせしています。

【お申し込み・お問い合わせ先】

障がい学生支援室(今出川) TEL:075-251-3273

E-mail:ji-care@mail.doshisha.ac.jp

障がい学生支援室(京田辺) TEL:0774-65-7411

E-mail:jt-care@mail.doshisha.ac.jp

2014年度「1dayキャンパス」

高校生、高校教員、高校生父母および在学生父母を対象に、下記の日程で「1dayキャンパス」を開催します。内容は、大学の近況報告、入試説明、キャリア支援の説明、高校生向け講座、各学部による個別相談など盛りだくさんです。皆様の参加をお待ちしています。

開催地	開催日	会場
仙台	6月1日(日)	KKRホテル仙台 市営地下鉄「勾当台公園」駅徒歩7分
福岡	6月22日(日)	TKP博多駅前シティセンター JR「博多」駅博多口方面徒歩2分
名古屋	6月29日(日)	TKP名古屋駅前カンファレンスセンター JR「名古屋」駅徒歩5分
金沢	7月6日(日)	ホテル金沢 JR「金沢」駅東広場徒歩1分
東京	7月20日(日)	TKP市ヶ谷カンファレンスセンター JR「市ヶ谷」駅徒歩1分

参加無料

詳細はHPをご覧ください。

● 高校生、高校教員、高校生父母向け

【HPアドレス】

http://www.doshisha.ac.jp/admissions_undergrad/entrance_exam.html

【お問い合わせ先】 入学課 TEL:075-251-3210

● 在学生父母向け

【HPアドレス】

http://www.doshisha.ac.jp/family/1day_campus.html

【お問い合わせ先】 校友・父母課 TEL:075-251-3009

新島旧邸特別公開終了のお知らせ

同志社の創立者・新島襄と妻・八重の私邸(1878年竣工、京都市指定有形文化財)を2012年9月1日から特別公開しておりましたが、2014年3月31日をもって終了し、同年9月30日までメンテナンス期間として休館いたします。

なお、10月1日以降の開館予定・予約方法については、決まり次第、同志社社史資料センターホームページでお知らせします。(http://archives.doshisha.ac.jp/)

【お問い合わせ先】 同志社社史資料センター TEL:075-251-3042
(平日9:00~11:30、12:30~17:00 土日祝日は閉室)

新入学生歓迎特別講演会

各界で活躍中の方をお招きし、学生生活を送るにあたっての温かいメッセージを頂戴します。

● 宮本慎也氏(野球解説者)

【日時】 4月14日(月) 17:00~18:30 (16:00開場)

【場所】 今出川校地 寒梅館ハーディーホール

【テーマ】 「球道即人道~野球から学んだリーダーシップ~」

安中・会津キャンプ参加者募集

同志社の創立者・新島襄は安中藩江戸屋敷で武士の長男として誕生しました。同志社創立の恩人といわれる山本覚馬は会津藩の砲術師範の家に生まれました。このキャンプでは新島家旧邸、安中教会、新島学園や、山本覚馬と新島襄の妻山本八重の生家跡地、鶴ヶ城などゆかりの地を巡ります。安中そして会津若松と同志社との関わりを知るなかで、同志社に影響を与えた人々の生き様やキリスト教について学ぶとともに、自らを省みる試みです。

【実施期間】 9月10日(水)~12日(金)の2泊3日

【お申込み】 5月中旬~6月上旬(予定)

【募集人数】 15人

【参加費用】 20,000円程度

【お申し込み・お問い合わせ先】

今出川校地 キリスト教文化センター TEL:075-251-3320

京田辺校地 キリスト教文化センター TEL:0774-65-7370

※今出川校地、京田辺校地で、それぞれ説明会を開催します。詳細は後日HPや掲示等でお知らせいたします。

ハリス理化学館同志社ギャラリー第2回企画展

森浩一の考古学・遺跡を共有する精神-

【期間】 2014年4月12日(土)~5月25日(日)

【閉室日】 月曜日、4月29日~5月5日

【場所】 ハリス理化学館同志社ギャラリー2階企画展示室

【主催】 同志社大学歴史資料館

会期中に、公開講演会などの企画展関連イベントを予定しています。

詳細が決まり次第、同志社大学歴史資料館HPやチラシなどでお知らせします。

同志社大学歴史資料館HP (<http://hmuseum.doshisha.ac.jp/>)

【お問い合わせ先】 同志社大学歴史資料館 TEL:0774-65-7255

Email:jt-reksi@mail.doshisha.ac.jp



WOT(ワット) = "What's On Thursdays!"

「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。

【会場】 寒梅館ハーディーホール

【料金】 本学学生・教職員はすべて無料

●4月17日(木) 映画上映『シェルブールの雨傘』(デジタルリマスター版)
16:00/18:30

1964年/フランス/91分/監督:ジャック・ドゥミ/
出演:カトリーヌ・ドヌーブほか

料金:一般 1,300円

Hardience会員・他大学生 1,000円

●4月24日(木) 映画上映『レ・ミゼラブル』10:30/14:00/18:00

2012年/イギリス/158分/監督:トム・フーパー/
出演:ヒュー・ジャックマン、アン・ハサウェイほか

料金:一般 1,300円

Hardience会員・他学生・前売 1,000円

【お問い合わせ先】 今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

※内容は都合により変更となる場合があります。5月以降も毎週木曜日、「日・EUフレンドシップウィーク」などの催しを予定しています。詳細はお問い合わせください。



クローバーシアター

開講期間中の毎週火曜日、寒梅館のミニシアター・クローバーホールでは、映画史に残る名作を中心に様々なイベントを開催します(デジタル上映)。

【会場】 寒梅館クローバーホール(地階)

【料金】 入場無料

●4月15日(火) 《日本映画の新しい波①~映像ワークショップ関連企画》
次代を担う若手日本監督を、分野のスペシャリストの意見を交えながら紹介するシリーズの第一弾。

17:00~ 映画上映+トーク

料金:500円均一

「第61回全日本学生弓道選手権」女子個人戦で優勝

関西リーグ1部で戦える実力をつけ、目標は1部で勝つ

小学校を卒業する少し前、地元愛媛県に実業団のクラブがあり、成年女子の練習風景をテレビで見て自分でもやりたいと思ったのが、弓道を始めたきっかけです。もともとスポーツはあまり得意ではなかったのですが、弓を引く姿に憧れて、小学校の数か月間と中学校の3年間、ジュニアチームに入って週2回の練習に通いました。

中学校の部活で吹奏楽をしていたことから、高校では弓道と吹奏楽、どちらを続けることにするか迷いましたが、中学3年生の夏、弓道の四国大会に出場して個人で優勝。その時に初めて、勝つというのはこういうことなんだと知ったのです。それまでは負けたときの悔しさはあったのですが、どうしても勝ちたいという強い気持ち、勝つことへのこだわりはあまりありませんでした。勝者となる気持ちがあったと言いか、初めて納得できた勝ち方だったので、それが忘れられなくて高校でも弓道を続けることにしました。それに、それまでいるんな方にお世話になっていたので、競技者として指導者に、勝って恩返しすることができませんでしたから。弓道で勝って恩返しをする。その気持ちは今もずっとモチベーションとして持ち続けています。

高校では1年生の選抜大会で団体準優

勝、2年生のインターハイでは団体6位入賞。3年生の時に出場した選抜総体・国体はすべて予選落ちという結果でした。あまり芳しい成績を残せなかったこともあり、さらに大学で4年間弓道を続けていく自信をなくしていたのですが、本学の弓道部でのちに女子の責任者をされていた3学年上の先輩が「弓立と弓道がしたい」と言ってくれて、同志社大学への進学を決めました。

昨年8月、全日本学生弓道選手権の女子個人での優勝は、初めての日本一でした。11月には伊勢神宮で行われた東西学生選抜對抗試合にも出場。弓道の聖地で初めて弓を引いて、普段はあまり緊張することはないのですが、その時だけは体がこわばり、震えが止まりませんでした。でも、実際に憧れの地に立つてみて、やっぱり同志社の仲間と一緒にここに来たいと思いました。11月末に女子王座決定戦が伊勢神宮で行われます。そこへ行くには、インカレで優勝するか関西学生リーグの1部で優勝するしかありません。今はまだやっと1部リーグに上がったばかりなので、1部で戦える実力をつけること

が先決。厳しい戦いになると思いますが、最終的には1部で勝てるチームになることが目標です。

卒業後は、2017年に愛媛国体があるのですが、地元代表として出たいという気持ちが強いです。まだまだ恩返しをしなくてはいけない方がたくさんいらっしゃいますから。



ゆだ 佳奈さん
【スポーツ健康科学部 3年次生】

